

# コロナ回復者の抗体活用 マスクとスプレー

1～6日 福島市で先行販売



抗体を利用したマスク（右）と布マスクなどに吹き付けて使う抗体スプレー

新型コロナウイルス感染から回復した人の血液から取得した抗体「IgA」を用いて福島医大が開発したマスクが十二月一日から六日まで、福島市栄町のいちい街なか店で先行販売される。本格的な販売は来年一月から。

マスクは四層構造で、抗体を染み込ませた特殊なフィルターが入っている。ウイルスがマスクの中に入り込

んだ場合、抗体がウイルスに吸着し、鼻や口から体内に入るのを防ぐ。

一箱二十枚入りで、税込み三千九百六十円。千箱限定。同大は須賀川市の企業と連携して量産化を進めている。来年三月には月産百万枚を目指す。

同店では期間中、抗体を含むスプレーも先行販売する。布やウレタン製のマスクの内側に吹き掛けて使う。体

質上、不織布マスクを使えない人らに配慮した。一本三十三センチ入りで税込み三千二百七十八円。

同大はコロナ感染症の予防薬の開発に役立つIgAを国内で初めて発見。製薬化には時間を要するため、医薬部外品であるマスクやスプレーを手掛けた。高木基樹教授(右)は「研究成果が県民のために役立つ日が訪れたい」と話した。